

2023 年 3 月 29 日

第 15 回新しい資本主義実現会議にあたっての意見

公益社団法人経済同友会
代表幹事 櫻田 謙悟

昨年 6 月に開催された第 9 回会議の席上、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」の取りまとめにあたり、政策の進捗や達成状況を国民にとってわかりやすい形で示すことをお願いいたしました。今般、フォローアップとして、現在の進捗状況と残課題、今後の対応方針を整理いただいたことは、実行計画の遂行に向けた PDCA の第一歩として大変意義あるものと思います。

そのうえで、PDCA サイクルをより効果的に機能させ、今後のフォローアップを新しい資本主義の実現に向けた真に実効性あるプロセスとするため、以下の通り、意見を 2 点申し上げます。

1. インプットからアウトプット・アウトカムによる進捗管理への転換を

今回の配布資料では、実行計画の各記載内容について、進捗状況として補助金の措置や各種プランの決定などを記載いただいておりますが、フォローアップでは、インプットではなく、施策の実施結果や効果といったアウトプットやアウトカムの把握に力点を置くべきです。計画策定から 9 カ月余しか経過していないため、やむを得ない面もあるとは思いますが、フォローアップにあたっては、一つひとつの施策に KPI を設定し、その達成状況に基づいて進捗管理を行うようお願いいたします。

例えば、賃上げ税制の活用促進や事業再構築補助金、ものづくり補助金による上乗せ支援の効果として、支援を受けた中小企業の平均賃金の推移や上昇率などを調査・報告いただけると実効性ある進捗管理になると考えます。

2. KGI を頂点とする施策の階層構造・因果関係の整理を

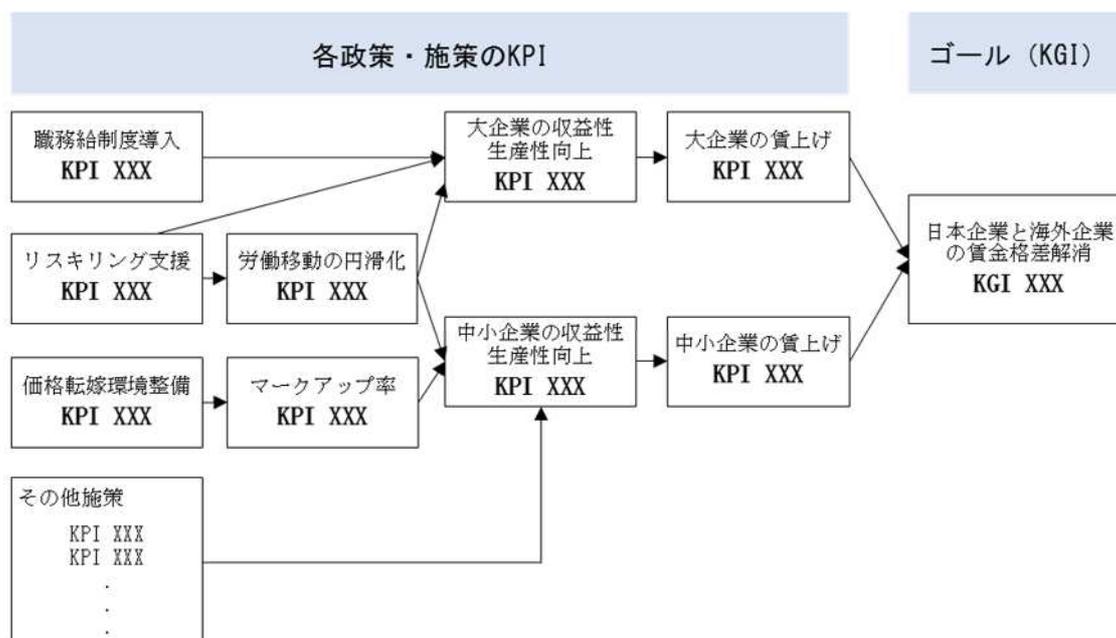
新しい資本主義はこれまでの経済社会のあり方を大きく変革する意欲的な取り組みであるため、多岐にわたる施策を同時並行で実行していく必要がある一方、ともすれば個々の施策の網羅的な列挙に終わりかねない難しさがあります。そのため、戦略的な大目標 (KGI) を設定し、その実現に向けた因果関係と施策間の階層構造の中に一つひとつの施策と KPI を位置づけ、体系的に取り組んでいくことが必要です。

一例を挙げると、「新しい資本主義を実現する上での考え方」(基礎資料 P1) や「人への投資と分配」(基礎資料 P3) では、今後の対応方針案として、「日本企業と海外企業間に存在する賃金格差の解消を KPI に掲げる」との記載がなされています。しかし、内外の賃金格差は様々な要因が積み重なった結果であり、個別施策の成果が即座に反映されるものではありません。

内外の賃金格差解消は、賃上げ税制の活用促進やリ・スキリング支援、職務給の確立などの各施策の積み重ねによって達成される大目標(KGI)と捉えるべきでしょう。そのため、中小企業の平均賃金やリ・スキリング受講者、職務給制度を導入した企業数など、各施策について把握すべきアウトプット(KPI)を設定し、KGI と KPI の階層構造と因果関係を検証していくことが必要です。そして、KPI は着実に進展しているにもかかわらず、KGI に好転の兆しが見られない場合には、施策の有効性や KPI の妥当性を再度検討し、改善や追加を行っていくことこそ、真のフォローアップです。

「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」を個別施策の網羅的な列挙に終わらせず、分厚い中間層の形成と持続可能な成長へつなげていくため、分野ごとの KGI を頂点とする施策の階層構造と因果関係の整理をお願いいたします。

(階層的な KGI・KPI のイメージ)



以上